

アワプラジオ通信【2015年4月号】

■発行元 アワプラジオ クリエイティブ ■102-0084 東京都千代田区二番町5-2 麹町駅プラザ901
■E-Mail: awapuradio@gmail.com ■TEL: 03-6868-5129 ■Web: <http://awapuradio.com/>

インタビューシリーズ

障がいのある息子との時間に思いを込めて

日本音楽協議会（日音協）東京都支部 事務局長・『組曲 息子と』作曲者
Rico こと森 理子（もりまさこ）さんに聞く



長野市生まれ。労働組合でともに地域活動をしていた友人に誘われてアコーディオンを持ち、それをきっかけに日音協の活動に参加。2月に東京都支部の事務局長に就任。

■Facebook

<https://www.facebook.com/masako.mori.3152>

—まずは日音協についてご紹介いただけますか。

日音協は全国の働く仲間たちで構成されており、「音楽で自分たちの生活や労働を『うたい、つくり、ひろげ、つなぎあう』というスローガンの基に活動しています。現在は、反原発運動や沖縄の基地問題の集会などで歌ったり演奏したりすることが多いです。曲はほとんど自分たちの作ったもので、たまに替え歌も演奏しています。

—『組曲 息子と』がつくられた背景について教えてください。

私には子どもが3人いますが、末の息子は知的障がいを持っています。それまで保育士として障がいを持った子どもたちと接し、解放運動に参加する仲間との付き合いもありましたが、実際に自分の子どもが障がいを持っていると知ったときはとても動揺しました。なまじ知識があるだけに、今後超えてい

かなければいけない問題なども想像ができてしまい、将来に対する不安も大きかったのです。

そして同時に、障がいを持った子どもを受け持つ解放運動にも関わってきながら、自分自身のことになると動揺してしまったことにとっても自己嫌悪を感じました。しかし、そんな思いを抱えながら実際にその子を育てていくうちに、時におもしろいこと、悔しいこと、世間との軋轢など様々なことがあり、その生活を歌ってみたいという気持ちが生まれました。また、ずっと抱えていた自分に対する許せなさというものも形にしてみようと思い、この曲を作りました。

最初に出来たのは、「うちの子こんなにおもしろいんだよ」（『ウチの息子は』）という部分です。初めは出来ないことばかりが目についてしまってなかなか理解しづらいですが、そういう性質なんだからしょうがないと開き直ってしまうと結構おもしろいんだよ、ということを書いていました。

そして同時に、私にとって最も辛かった、息子に障がいがあると知ったときの気持ちを綴った曲も自分の結晶として作りました。結果的に全く正反対の2つの曲が出来上がりましたが、しんどい時期があったからこそ今は気楽にやれているという思いと、こういう気楽さの裏では割とぐちゃぐちゃだったという事実。この2つを両方合わせて形になるので、どちらも聴いてもらえるように組曲にしました。

—曲を発表されてみて反響はいかがでしたか。

当初はこの曲を演奏することに迷いがありました。運動や労働の曲が多い中、障がいを持った息子の曲という今までにはないジャンルだったので、身内の話をするのは場違いなのでは、プライベート過ぎるのではという不安もありました。ですから発表するまでは誰にも聴かせず、ずっと内緒にしていました。

やめとけて言われたら困るから (笑)。

しかし実際に演奏してみると、「生活の中の止むに止まれない気持ちを歌にした」ということで高い評価をいただきました。障がいの有無に関わらず子育てはみんな迷いを抱えながらやっているの、そういった意味では共感できる部分が多かったのではと思います。また私は普段、息子を連れて活動に参加しており、息子のことは仲間がみんな知っているの

で、この子に対する私自身の思いを周囲に知ってもらえたこともうれしかったです。

現在はこの曲を特別支援学校の保護者仲間や日音協のセミナーで聴いてもらっていますが、まだ限られた範囲なので機会があればもっと多くの人に聴いてもらいたいと考えています。障がいというものが身近ではない人にとって、この曲が気付きになってくれればありがたいですね。(まとめ：井上舞香)

『組曲 息子と』(作詞・作曲：Rico)

告知

『この子の耳は聞こえてません』 あの日 医者はそう言った
教科書読むように何でもないように 検査の数字をそう告げた
ベッドの上には小さいあなた 管とコードを身にまとう
始まったばかりの小さな命 でも、もう見えない未来

この子をどうして育てればいい 数字じゃなんにもわからない
手当たり次第に育児書さがす 本屋の棚の端から端へ
こんなにたくさん言葉はあるのに 誰も私に答えない
枕辺で歌う子守り歌 届かないのか 声は

抱きあげる手に 力を込める 私は自分が怖ろしい
私の中の真っ黒な闇が 振り出しに戻りたがる

私は知っている この世界の冷たさ 酷さ
自覚のない差別 受け入れないかたくなさ
顔の無い人々は 遠くから責め立てる
きれいごととは絵空事 ここを渡って行けるか

旗を高く掲げよう 私たちはここにいる
鳥よ風よ 私に気づけ ここで生きるために
共に生きるために

ウチの息子は

ウチの息子は かなりわからんちん とんちんかん
何度叱られても屁の河童 二度やることは三度やる
ウチの息子は 見たがり聞きたがり喋りたがり
『なんでなんで』を繰り返すけど 答える時にやもういない

認識範囲は 半径 そうね1メートル
目の前から消えれば無いのも同じ 落とした消しゴムも
拾えない

そのままで良いなんて 言ってもやれるほど心は広くない
もう少し何とかなっしてほしい親心

ウチの息子は 人が好き 大好き
目と目が合えばお友だち 言葉交わせれば大親友

空気を読めない 顔色読まない 加減を知らない
好きの気持ちだけで一直線
しつこくて しつこくて しつこくて しつこくて ごめんね

そのままで良いなんて 言ってもやれるほど心は広くない
もう少し何とかなっしてほしい親心

お酒の席が大好き おかわり注文お手のもの
帰り際には必ず言うよ 『もう一軒いこう』 誰に似たの

そのままで良いなんて 言ってもやれるほど心は広くない
だけど それなりにあんたと 笑いあうのは悪くない
そのままのあんたとでも 笑いあえれば悪くない

コトバ

『あいうえお』は簡単 『かきくけこ』は難しい
『さしすせそ』は大変 『たちつと』は物による

ろうそく吹いたり うがいをしたり
訓練たくさんしたけれど あんまり上手じゃない
けどおしゃべりは好き
新しい先生になると コトバはなかなか伝わらない
クラスの友達が通訳をする

『なにぬねの』はそれなりに 『はひふへほ』はコツがいる
『まみむめも』は大丈夫 『らりるれろ』はちょっとヘン

同じになろうとがんばってみても 追いつけるもんじゃない
伝えたい気持ちいっぱい だから君に話しかける

コトバを繋いでいくものは シャベる方だけじゃないね。
だから聴き取ってくれる耳に ありがとう
コトバ受け止めてくれる君に ありがとう

不思議

耳は聞こえているけれど 聞きとることはむずかしい

目は見えているけれど 読みとることはむずかしい

あなたの ところと からだと 知識は

どんなふうにつながっていて

どんなふうの 育つのだろう

※この記事の基となった番組音声はこちらから

<http://awapuradio.com/awapuradio/tokyoloveletter/>



安倍晋三首相が国会の場で自衛隊のことを「わが軍」と発言しました。確かに自衛隊はどう見ても軍隊ですが、歴代の政府は憲法9条との整合性を付けるために「軍隊とは異なる」と言い続けてきました。そのことによってあいまいではあっても、自衛隊の行動に一定の抑えが効いていた面があったはずですが。今回の首相の発言は「それを言うてはおしまいだ」といった感じがします。

同じく国会での自民党の三原じゅん子参議院議員による「八紘一宇」発言。八紘一宇は太平洋戦争中に侵略行為を正当化するための標語として使われた歴史的経緯があります。三原議員が何を伝えたかったかはともかく、言い間違いなどではないこの発言に、言葉の表面だけをあげつらって云々というような反論は通用しません。

かつては平和憲法に後生しがみつくのはおかしいとか、南京大虐殺はでっち上げなどと発言した閣僚が辞任に追い込まれました。他党や国民市民からだけでなく、身内からもすぐに非難の聲が上がりました。わが軍も八紘一宇も十分それに相当するように思いますが、この静けさは何なのでしょう。

戦争や個人が尊重されない社会というのはこうして気付かないうちに、少しずつ醸成されていくものです。私たちはそれに慣らされるのではなく、もっと為政者の発する言葉に敏感でなければいけません。

インターネットラジオ アワプラジオ

■東京ラブレター (毎週木曜日・21:00~21:30)

首都圏で活動するNPOやNGO、市民グループや個人の方を紹介する番組です。

●4月のオンエア【2日、9日、16日、23日、30日】

「仲間の半生に静かに耳を傾ける90分をつくる活動」
マイヒストリーの会 幹事 深川薫さんに聞く
ナビゲーター: あべこう一、西澤尚美

※今月は高木祥衣さんに代わり、西澤さんが務めました。

●番組の聴き方

「サイマルラジオ」(<http://www.simulradio.jp/>)
にアクセス→「近畿」から「FMわいわい」を選択
スマホやipadからはアプリ「TuneIn Radio」をダウンロード。「FMYY」を選択してお聴きください。

●東京ラブレターのページ (過去の放送が聴けます)

<http://awapuradio.com/awapuradio/tokyoloveletter/>

■ラジオドラマ『河童の水墨画』

現在収録中。サイト内に活動報告のコーナー(ブログ)を開設しました。 <http://kappa-elegy.jimdo.com/>

あべこう一の音楽活動

■2015.4.3(金) 下北沢 LOFT (東京)

場所: 下北沢 LOFT

(京王井の頭線・小田急線「下北沢駅」南口5分)

18:30 開場/19:00 開演

チャージ: 2000円 (ワンドリンク付き)

出演: masaomi/CLOW/あべこう一/原裕樹

※あべの出演は20:20頃予定ですが、早めにご来場いただいで他の演奏者さんのライブもお楽しみください。

■CD-R 盤『HOME&STUDIO RECORDING DEMO ARCHIVE SERIES』

1997~2003年頃にかけて収録された貴重なデモ音源を発掘。あべこう一 21~27歳の意欲的な楽曲制作の風景を

パッケージ。500円でライブ会場でのみの販売となります。



1. Rock Band (アコギ Ver)
2. 純青を遠く運び去ったものたち
3. Hello Goodbye だ…
4. 無自覚なビート
5. ぶんぶんぶん
6. Every day I Wake Up
7. 似顔絵
8. 形見

9. 風のドラマ
10. Change
11. 水のように透明な愛がいい
12. 悲しきメリーゴーランド
13. いろいろカフェー
14. Rock Band (バンド Ver)
15. あおはる

■あべこう一の CD アルバム

夏に消えていく

(2013年作品・1500円)

1. 夏に消えていく
2. 君と僕と冷えたコーラ
3. イニシャル 2013
4. 雷 Dance!
5. タイムカプセル

東京実験 (2012年作品・2000円)

1. いろいろカフェー
2. 悲しくもおだやかな世界
3. Change
4. イニシャル
5. 無題ドキュメント
6. 風のドラマ
7. 雷の下で雨粒に撃たれ

●詳細はこちら <http://k-abe.jimdo.com/shop/>

セミナー・イベント情報

■「自分の強みを知るための『眠らせている資源』発見セミナー」

日時: 4月28日(火) 19:30~21:00 (開場 19:00)

場所: ちよだボランティアセンターC会議室

(地下鉄「神保町駅」A5出口8分、JR「水道橋駅」東口5分)

※内容調整中。

●すべてのお問い合わせ

awapuradio@gmail.com/03-6868-5129 (阿部)

本の紹介

眉山 (2004年12月)

さだまさし著・幻冬舎文庫・535円



舞台は夏の徳島、市内の中心に立(りつ)する「眉山」を背景に、そして日本三大盆踊りのひとつ「阿波踊り」を軸に、江戸っ子のお龍がガンで息を引き取るまでの短い物語だ。

自分が死んだら身体を「献体」として提供するように申し出ていたことを知った娘・咲子は、ショックの中なぜ母がその決

意をすることになったかを知ろうとしていく。その過程で語られる母の若き日の物語は、やがて自身の生い立ちへと道を繋いでいくことになる。

なぜ気風のいいお龍が死してもなお身体を残す「献体」を選んだのか。その決意の中にあったのは、揺らぐことのない確かな愛情だったのではないか、と思う。

お龍の生き様は潔い。静かで優美、それでいて時に激しく大胆に感情を昂ぶらせる阿波踊りそのものだ。その潔さがお龍を生かし、最期の奇跡的な瞬間でさえ哀しいくらい毅然としたまま人生を歩ききった。

町全体が踊りの熱気に包まれる夏の阿波踊り。老いも若きも男も女も皆が踊り三味線が唄う。夏祭り特有の、烈しくどこか物悲しい雰囲気さなか、無言ですれ違う恋人同士の姿は美しい切なさを持って胸に響く。その瞬間、時間も場所も超えた深い絆が確かに存在していた。

咲子は「母」が「献体」を希望していた理由に辿り着く。

それは「母」の「想い」に辿り着く瞬間でもあった。

(浅香友里)

世界の美しい図書館 (2014年12月)

アフロ、アマナイメージズ著
パイインターナショナル・1944円



図書館は近年そのサービスを多様化させ、一般的な書籍や音楽・映像資料の視聴貸し出しに電子書籍サービスを加えた上、時々テーマにそった企画展示と関連資料の紹介、セミナーの展開等積極的に学習の場として情

報交換や新たな議論を提供すべく工夫が重ねられている。

この本ではそんな図書館の建築に焦点を当て、世界の美しい図書館を取り上げ大きく写真を掲載し紹介している。大英博物館やフランス国立図書館、スペインのエル・エスコリアル修道院、イタリアのアンプロジアーナ図書館のような歴史あるものから現代のものまで掲載されている。ケルンにあるミニピブは公園内にあるガラス張りの小さな図書館で、登録のない信用貸しを行っている。

日本からも成蹊大学図書館等数々の図書館が紹介されている。多摩美術大学八王子図書館、武蔵野美術大学図書館はデザインに力を入れている美術大学の面目躍如といったところだろうか。治安の悪化に対するプロジェクトとして建てられたペッカム公立図書館や、アラビア詩に関する書籍に特化したアル・バブタン図書館は、環境政策や図書館のもつテーマなど、また他の興味深い側面を見せてくれる。お気に入りの図書館探しを楽しめる一冊。

(内藤千尋)

「アワラジオ通信」を毎月あなたの家のポストへ！ あべこうファンクラブ「Oasis」会員募集

■お申し込みの上、下記の口座へ年会費をご入金ください。

【入会金0円 年会費4200円】

【郵便振替】

郵便振替口座 15530-3969671

名義 阿部浩一

【銀行振込】

中央労働金庫 本店営業部

普通 3113628

名義 アワラジオ 事務局長 阿部浩一

三菱東京UFJ銀行 インターネット支店

普通 3772395

名義 阿部浩一

申し込み (お名前とご住所をお書きください) ・お問い合わせ awapuradio@gmail.com 03-6868-5129 (担当: 阿部)



編集後記

自宅の書棚にあった大量の書類を処分しました。そこには昨年4月に退職した勤務先の仕事にかかわるものも多くありました。なんとなく焦点が定まらず、迷走していた感もあった私のこの一年。その原因はこれらを引きずった

ままだったことにもあったのかなとふと思いました。冬が終わって暖かい季節がやってきます。何かを始めるのに理由はいらぬ。理由なんて後から考えればいい。これからが本番！の気持ちで行きたいものです。(阿部浩一)